写真㊨シイタケ栽培を始めた当時使用していたドリルやナタなどを見せてもらいました
写真㊧当時のシイタケ栽培の様子を懐かしそうに話す天池勉さん

写真㊧㊦天池さんに話を聞いてメモを取る「シイタケ探検隊」の皆さん

三和町のシイタケ その歴史を聞く

三和小学校５年生（以下シイタケ探検隊）の朝日理乃さん、柴田美穂さん、山田舞さんが、三和町におけるシイタケ栽培の歴史を調べるため、天池勉さん（同町廿屋）を訪ねました。
勉さんの父天池武義さんは、三和町でシイタケ栽培を広めた一人です。

昔使っていた栽培用の道具 一度使ってみたい

文・柴田美穂

天池さんの話によると、三和町でシイタケさい培が本格的に始まったのは戦争（太平洋戦争）が終わった後だそうです。
戦争から帰った人たちは仕事がなく、いろいろな仕事をしてみたけれど、シイタケさい培が一番よいといって、みんなが始めたそうです。
それから、シイタケさい培はどんどん広がり、となりの県へも広がったそうです。
三和でシイタケさい培がさかんになったときには、どのくらいの人が働いていたのか聞くと天池さんは、「昔、川浦と廿屋では１５０軒くらいが本業でやっていた」と答えてくれました。
当時のシイタケさい培は本当にさかんで、全国の４割が三和で作ったシイタケでした。しかし最近では、中国からシイタケが輸入され、三和のシイタケがあまり売れなくなってしまったので、みんなやめてしまったそうです。
シイタケさい培に使う道具について、今と昔のちがいを聞くと、昭和30年ごろまでは、原木に穴を空けるための電動ドリルがなく、手作業で穴を空けていたそうです。天池さんは「昔は手作業で、たくさんの原木に穴を空けるのは大変だった」と言っていました。
私たちは、シイタケさい培の事はあまり知らなかったけれど、歴史を通してたくさんのことが学べました。また、昔さい培に使っていた道具も一度使ってみたいと思いました。